

2018年9月10日、日本から鹿児島大学の片桐資津子教授が華東政法大学を訪れ、華東政法大学の教授や学生たちと学術交流を行った。片桐教授は鹿児島大学で高齢者や社会福祉について研究しており、そのため今回は華東政法大学に到着したのち午前中に社会発展学院の楊（ヨウ）雪晶先生と交流し、高齢者の家族関係や年金、介護予防など様々な問題について討論した。片桐・楊教授共に、高齢者問題についても互いの研究内容を基にしつつ、日中での問題の違いやその比較についても意見を交換した。

午後は片桐教授と華東政法大学の9名の学生が汇贤楼のB102会議室において「福祉、社会、生活」をテーマとしてディスカッションを行った。テーマについて2時間半ほど日本語と英語によって行われ、教授のみならず全ての学生が自らの意見を述べるなど積極的に参加した。



ディスカッションは主に3つのテーマについて行われた。1つ目は高齢者の社会的孤立の問題であり、学生は政府の対応や家族の参加などのほかにNGOやNPOの活動が非常に重要であると強調した。

2つ目は高齢者介護施設でのロボット等のAI活用についてであり、学生たちはロボットへの印象が人によって異なると指摘し、よって高齢者介護施設内での効果も異なると考えられると述べた。

3つ目は片桐教授による「高齢者の介護予防の活動効果をスマホのアプリ等を用いて数値化してデータを基にゲームのようにビジュアル化し健康管理を行う」という提案についてであり、限られた予算内で効果を高めるために高齢者の意識の変化を行うゲーミフィケーションの発想を介護に取り入れるという提案に対して、学生たちは想定される良い効果だけでなく、注意すべき点も含めて意見を述べた。



このほかにも、コンビニでの高齢者向けサービスや高齢者のコミュニティの話題にも取り上げられており、片桐教授は「ディスカッションは成功した」と締めくくった。片桐教授が今回大学を訪れ、このように話し合ったことにより、日中両大学の学術的交流がより深まり、互いの研究に貢献したと考えられる。

日本語訳:花房快